

ジニア ザハラ®XL(エックス・エル)・シリーズ

学名: *Zinnia Marylandica*

種子粒数の目安: 300 から 600 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.0、また EC は 0.75mmhos/cm(2:1)以下とする

播種

プラグトレイサイズ: 200 穴や 288 穴、あるいは同容積のサイズのトレイに播種。播種後はバーミキュライト等で中程度の厚みで覆土する。

ステージ 1 - 発芽には 2,3 日要する

温度: 20 から 22°C が適正

光条件: 発芽には光は不要

湿度: 子葉の発現までは相対湿度を 95 から 97% に維持

ステージ 2

温度: 昼間 21 から 24°C、夜間 16 から 18°C

光条件: ステージ 2,3 においては 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルは標準(level 3)からやや湿潤(level4)の範囲で維持する

肥料*: レート 1(100ppm(N)以下、EC が 0.7mmhos/cm)の濃度で、リン酸分が低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3

温度: 昼間 21 から 24°C、夜間 16 から 18°C

水分: ステージ 3,4 においては、水分レベルを標準(level 3)で維持する

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N))に上げる。pH は 5.8 から 6.2、EC は 0.7 から 1.0mmhos/cm(1:2)の範囲を維持

ステージ 4

温度: 昼間 18 から 21°C、夜間 16 から 18°C

光条件: 温度管理が適正であれば、53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで上げて可

肥料: 上記ステージ 3 と同じ

PGR(矮化剤)

プラグ生産ステージにおいては、矮化剤は概ね不要である。もし必要であれば、播種後 10 から 14 日で、一度 B ナインを 1,250 から 2,500ppm の濃度で葉面散布する

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

ザハラ XL の移植鉢のサイズは 10cm 前後が適当で、カットバック等での生産も可能

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、初期の EC 値は中庸とする

温度

昼間温度: 18 から 21°C

夜間温度: 16 から 18°C

光条件(照度)

温度管理が適正であれば、できるだけ高く設定する

肥料

移植後 1 週経過してから、レート 3(175-225ppm(N)、EC: 1.2-1.5mmhos/cm)の濃度でリン酸分の低い、硝酸態の肥料を与える。必要であれば、株の生長の状態を見ながら、培地の pH のバランスを確認してアンモニア態の肥料を適宜与える。培地の EC は 1.5 から 2.0 mmhos/cm、pH は 5.8 から 6.2 の範囲を超えないように注意する

かん水

極端に過湿、または過度に乾燥させないようにする。また真上からの、いわゆる頭上かん水は避ける。病気の誘発などを防ぐ点からも、葉に水を残さないよう時間などを考慮してかん水を実行する

PGR(矮化剤)

濃度 3,500 から 5,000ppm の B ナインを 2 回、葉面散布することで生長(草丈)の制御の効果が確認されている。初回は移植後 1 週たつてから、2 回目はその後 7 から 10 日おいてから与える。カットバック生産の場合は、さらにもう一度散布が必要となる場合がある

※ 北西ヨーロッパのような冷涼な気候条件の下では、矮化剤はそれほど多く必要とはしない。濃度 1,600ppm の B ナインを、2 回葉面散布すれば十分である

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 から 406 穴トレイを使用): 約 3 週

移植から出荷適期(開花)まで:

8 から 9 週 (春全般)

5 から 6 週 (初夏から夏)

短日期よりも長日期の作型の方が生産期間は短い

病例等

害虫: 生産初期はアブラムシに、また開花時期にはスリップスからの監視、防除が必要

病気: 湿度が高く、蒸れやすい環境は極力避ける。このような条件では、ボトリティスやウドンコ病を誘発しやすい

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適し得ない場合があります。

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう